

No.630 (改題590号)
2023年
9月27日(水)

新社会兵庫



週刊 新社会

発行所: 新社会党
〒101-0051 東京都千代田区神田神保町2-10 三辰工業ビル3F
TEL. 03(6380)9960 FAX. 03(6380)9963

新社会党兵庫県本部 神戸市中央区中山手通5丁目2-3 ☎078(361)3613 FAX078(361)3614 毎月第2、第4水曜日発行 購読料月400円(1部200円)郵便振替:01120-7-16805

沖縄を再び戦場にするな

三上智恵監督のスピノフ作品上映 明石



午後の部ではオンラインで沖縄から山城博治さんの報告を受け質疑応答を行った=9月9日、明石市勤労福祉会館

ここ数年、急ピッチで進む南西諸島の軍事要塞化。それは沖縄を再び戦場と化する戦争準備に日々つき進んでいる現実にはかならない。だが、「すでに戦争が始まっているような」この現実に対する危機感が一向に全国で共有されていないことを憂う三上智恵監督が、来年4月完成予定で新作のドキュメンタリー映画「沖縄、再び戦場へ」(仮題)を制作中だ。その完成までの間、刻々と変わっていく予断を許さない状況を伝えようとするこの映画のスピノフ作品をつくり、全国での上映を呼びかけている。

山城博治さんも沖縄から訴え

サイル部隊、警備隊あわせて800人規模の陸上自衛隊駐屯地が開設される計画の宮古島で先発の宮古警備隊380人の「編成完結式」が行われた映像だ。やがて、「保管庫」という名の弾薬庫の建設、誘導弾ミサイルの配備へと進んでいく。石垣島、与那国島でも弾薬庫の建設、ミサイル部隊の配備だ。こうした基地群は、戦争時の攻撃対象にほかならず、ひとたび有事が起れば南西諸島そして沖縄はかつてのような戦場になることを意味する。

こうしたなか、憲法を生かす会・明石は9月9日、「沖縄、再び戦場へ」スピノフ上映会を午前と午後の2回、明石市勤労福祉会館で開いた。午後の部では沖縄の山城博治さん(ノーマ沖縄戦・命どう宝の会共同代表)とオンラインで結んで現地からの情勢と闘いの報告を受けた。

作品では今年1月、那覇市で行われた、災害ではなく弾道ミサイルを想定した避難訓練の様子も紹介される。さらに、スローガンやデモのあり方など新しい運動スタイルをめぐる

様々な議論を重ねて若者が積極的に行動に参加した広がりも描かれている。南西諸島の基地化反対運動でもリーダーとして活躍の山城博治さんから、南西諸島の要塞化の背景となっているアジア人同士で戦わせるアメリカのアジア戦略が説明され、台湾有事による沖縄の戦場化は、沖縄だけの問題ではなく、全国の課題であることを指摘した。そしていま、沖縄の島々をすべからず軍事利用する戦略のなかで、沖

マイナ保険証一本化の見直しなどを訴え 社民・新社会両党の合同街宣

社民党兵庫県連と新社会党兵庫県本部は9月10日、JR元町駅前前で合同の街頭宣伝を行った。選挙時を除く日常活動での両党の合同街宣はこれが初めての試みで、この間、両党の近畿ブロックと県組織の間でそれぞれ重ねてきた懇談での合意にもとづくもの。岸田政権の大軍拡と改憲への暴走が止まらないなか、こうした状況に立ち向かっていくための護憲勢力の形成・拡大の努力の一環として、ささやかでも一つ一つの行動を大切にしていこうと始まった行動で、大阪と兵庫で月ごとに交互に行う予定だ。

ひょうご(143) 描き、歩き
かつてこの辺りから西の播磨灘の海岸にいくつも塩田が広がっていた。学生の頃、大塩辺りで通学の車窓に塩田が広がっていたのを思い出す。海水を塩浜に送り込んで砂に塩の結晶が付くようにした入浜式塩田であったものが、その頃にはゆるい傾斜を付けた盤の上に海水を流し枝条架でかん水をつくる流下式の製法に変わっていた。柴竹が逆さに吊るされた枝条架が砂浜に並び立ち、塩の香りが車窓から入ってくる塩田風景であった。その塩田もはるか過去に姿を消し、画の水門にかかる入江の両側には塩田跡を利用したゴルフ場が広がり、その傍に大学が進出し

ひょうご(143) 描き、歩き



大塩の水門 (姫路市大塩町)

てきて塩田の町は大きく様変わりしてきている。播州路の秋祭りを代表する一つである毛獅子の舞で有名な大塩天満宮は、山電・大塩駅の北側に在った社殿を南側に移して在る。西隣の形、白浜の砂浜も潮干狩りや海水浴場として賑わってきた。私の住む高砂もかつて白砂青松の遠浅の海岸が広がっていて、夏にはその浜辺まで焼けた砂道を歩いて行ったものだった。今や潮風は化学臭に変わり、砂浜は失われ、工場群が海岸線を占領して海辺に近づけない。古代、海は万民のもの」と宣言したかつての入浜権運動に想いを馳せる。(嶋倉)



大塩の水門(嶋倉)
大塩の水門は、かつて大塩の海岸に広がっていた。夏にはその浜辺まで焼けた砂道を歩いて行ったものだった。今や潮風は化学臭に変わり、砂浜は失われ、工場群が海岸線を占領して海辺に近づけない。古代、海は万民のもの」と宣言したかつての入浜権運動に想いを馳せる。(嶋倉)



大橋ゆうこ参議院議員やあわはら富夫神戸市議らが順次マイクを握って訴えた=9月10日、JR元町駅前

沖縄連帯集会
10月22日(日)10時
兵庫県学校厚生会館3F
(JR元町駅・北5分)
講演 山城博治さん(ノーマ沖縄戦・命どう宝の会共同代表)
沖縄戦・命どう宝の会共同代表
要参加申込
078・241・3811
FAXで
へ

本土復帰50年 沖縄写真展
10月12日(木)~14日(土)
神戸市北区・すずらん広場(神戸電鉄・鈴蘭台駅ビル3F)
主催 沖縄写真展実行委員会
(入場無料)

水脈

酷暑の夏から秋へと季節は変わる。台風は急回転で私たちを翻弄し、線状降水帯は大雨を降らす。被害は避けられない実態にある。9月1日は防災の日。関東大震災から100年になる。死者・行方不明10万人余の大災害。パニックの中、「朝鮮人が井戸に毒を入れた、放火した」等の流言飛語によって多くの朝鮮人が虐殺された歴史と向き合う日だ。追悼式典に小池都知事は今年も出席せず追悼文も送らなかつた。松野官房長官にいたっては「記録はない」と歴史を否定。同日、「福田村事件」という映画が封切られた。戦死者の遺骨が故郷へ戻る場面から始まり、流言飛語によって起きた朝鮮人・社会主義者狩り、香川からの行商人まで朝鮮人と見込まれて自警団に殺される。歴史の隠蔽、差別、群集心理の怖さを知った。奈良県御所市にある水平社博物館に行く機会があった。人間の尊厳を求めた100年の解放の闘いの歴史の展示。人間同士が差別しあう愚かさや学ぼう。婦人水平社の記録もあり、研究者の講演で第1回大会での宣言文の呼びかけが「兄弟よ」であり、なぜ「兄弟姉妹よ」ではなかつたのか、女性は二重三重の差別と圧迫を感じていたのでは指摘されたことが心に残っている。

神戸空襲戦跡ボランティアガイド

養成講座・第1回を開催

参加があった。第1回講座は兵庫区が対象地域で、空襲体験記を読み、兵庫区南部の空襲跡の紹介ビデオを観た。



神戸空襲戦跡ボランティアガイド養成講座の第1回講座が9月10日、神戸学生青年センターで開かれた。空襲体験者が減り、78年前に戦争が神戸の地にあったことも忘れられそうなる不安もあり、歴史に学ぶ現地に立つ語り伝えるガイドを

1人でも増やしたいという思いから企画されたもの。講座には、ボランティアガイドをやりたいと思う人、酒蔵ガイドや湊川隧道ガイドをやり戦争遺跡にも興味を持ったという人、歴史が好きという人、歴史が好きな人、朝鮮人と戦争について関心がある人、子どもたちどう伝えるかというのを考えている教員など、様々な思いを持った人の

読後感想文コンクール

「残留日本人孤児」を支援する兵庫の会・明石日本語教室『10周年記念誌』

1945年、旧満州に敗戦の混乱の中で肉親と引き離され、中国に取

やってみよくなった。2回目の講座は11月12日、中央区の空襲について神戸学生青年センタ

1で、参加費500円。申し込みはFAX 078・891・3019まで。(小城)

改憲の動きをウォッチング

「ことごとく約束破った」汚染水の海洋放出強行 福島県内外の住民が差し止め求め提訴

日中友好協会、神戸市、兵庫県の後援も得て10月未を締め切りとして現在募集中。希望者にはPDF版(無料)か冊子現物(送料3・8263(藤田))

最近、衝撃的な「映画」を本誌で観た。ひとつは来春以降に劇場公開が予定される三上智恵監督の最新ドキュメンタリー映画「沖繩、再び戦場へ」(仮題)のスピノフ作品で、(だからまだ映画とは言えないのだが)で、もうひとつは森達也監督の「福田村事件」である。

島民の反対闘争はありながらも南西諸島で急ピッチで進んでしまったミサイル配備、軍事要塞化の現実に対して「すでに戦争が始まっているような危機感が一向に全国に共有されていない」(三上監督)との切迫感に満ちた危機感が新作のドキュメンタリー映画の制作に駆りたてた。そのスピノフ作品では、ごく当たり前のように島の公道を我が物顔で走る自衛隊の戦車の姿や那覇市での戦争を想定した住民の、実際には避難という点では何の意味もない避難訓練などの様子などが映し出される。

岸田政権は、安倍政権からの安保政策を受け継ぐとともに、ロシアのウクライナへの侵攻、それとリンクさせた台湾有事をめぐってつづられた中国、さらには北朝鮮への危機感の醸成を奇貨として、アメリカの言いなりという惨めな姿を見せつつ、「戦争できる国」から「戦争する国」へとさらなる安保政策の大転換へのアクセルを踏んだ。それが昨年末の敵基地攻撃能力の保有決定であり、防衛費の2倍化、向こう5年間の防衛費総額43兆円の計上である。

しかし、こうして一度決まってしまう大軍拡路線は決してそこに止まることはない。反対運動などはお構いなしに、軍事費はさら

「琉球新報」からこの不当判決をめぐる怒りの声や行動を拾う。弁護団―判決が公水面埋立法の要件適合性に触れていないことから、「(要件適合性を)はっきりさせよう」と住民側は今後も(訴訟を)続けることになる(11日)。

際限ない軍事国家への道 戦争準備への暴走許すな

岸田政権は、安倍政権からの安保政策を受け継ぐとともに、ロシアのウクライナへの侵攻、それとリンクさせた台湾有事をめぐってつづられた中国、さらには北朝鮮への危機感の醸成を奇貨として、アメリカの言いなりという惨めな姿を見せつつ、「戦争できる国」から「戦争する国」へとさらなる安保政策の大転換へのアクセルを踏んだ。それが昨年末の敵基地攻撃能力の保有決定であり、防衛費の2倍化、向こう5年間の防衛費総額43兆円の計上である。

事大國への道よろしく、「防衛装備移転三原則」その運用方針の見直しを急ぎ、やがては武器輸出の全面解禁への道を探っている。

また、必要なことは決してあきらめないこととだ。必要ならば肝に銘じよう。あきらめることなく、声を出し続け、その声を広げる努力を続けるしかない。まずは事実を知らせるところからだ。その事実が危機感を持つ人々たちを核として、考える力、さらに広げ訴える力を獲得していくことだ。小さな一歩、小さな前進しか生み出せないかもしれないが、できることを地域から着手していこう。三上監督のスピノフ作品の上映運動もそのひとつだ。

大衆行動―那覇市内でも、軟弱地帯が見つかった海域(大浦湾)では海上抗議行動が。辺野古のキャンピングシュワブ沖の新基地建設現場では、埋め立て用の土砂を搬入するトラックの前に座り込み、抗議…等々、不当判決に対する抗議と「玉城知事、がんばれ」の声が各地に響きわたった。(中)

私の主張

映画「福田村事件」は、関東大震災の混乱のなかで香川県から千葉県福田村に行商に来た一行が、朝鮮人と間違われて自衛団に殺される事件を描く。非常事態のなかで国家権力側のテマで煽られた群衆心理がどんなに怖いも

の計上である。一方、基地の実相の把握については、今や

秘密保護法、土地規制法、ドローン規制法などで撮影は大きな制約を受け、処罰の対象となっていることにも恐怖感が募る。

この状況への危機感をどう共有し、歯止めをかけ、はね返していくか。今後、われわれが問われ続ける課題である。しかも、反対運動や阻止闘争というものは、その対象が既成事実化されていくと、どうしてもあきらめが生まれる。さらに闘いで敗北が一つと、重たい敗北感すら垂れ込めてくる。

「国」に対し、海洋放出の計画認可や関連施設の検査適合の取り消しを求め、東電には海洋放出禁止を求めた(東京)。

最賃の取り組み強化を提起

神戸ワーカーズユニオンが定期大会

神戸ワーカーズユニオン(石上敬三委員長)は8月31日、中央区文化センターで第37回定期大会を開いた。

提案された活動方針案では、最低賃金の取り組みと組織活動・財政活動の強化が強調された。

討論では、「介護福祉ケアワーカーの交流会に20代の仲間が参加した。交



大会の冒頭にあいさつする石上敬三委員長＝8月31日、神戸市・中央区文化センター

流を積み上げユニオンに入らなければならない。若い仲間の集まる場を作る必要がある(垂水支部)、「非常勤は時給50円アップ、常勤は1年間の期限付き物価サポート手当約1500円の支給で妥結した。みんなの意見を共有化することが大事だ(ろっこう医療生協分会)、「7月に退職したが、

従業員をコマとしか思っていない社長からは劣い言葉もなかった。労働委員会は終わっていないので支援をお願いしたい(権田工業分会)、「23春闘では3千円の賃上げを勝ち取り、一時金も非常勤職員など最高0・9ヵ月支給も実現した。ユニオンがあったから50年間働きつづけた(清心ホーム分会)など8人から発言があった。

大会は最後に、権田工業や神戸電化工業での労働組合つぶしや解雇など労働者の権利を無視する攻撃との厳しい闘いが続くなか、「あきらめることなくみんなで解決する力を持つことが、近い将来、仲間の信頼の輪を広げることになる」と謳った「私たちの友だち宣言」を採択して閉会した。(菊地)

伊藤野枝を偲ぶ講演会

評伝の著者・堀和恵さんが講演

大逆事件を明らかにする兵庫の会が開催

「大逆事件を明らかにする兵庫の会」主催の講演会「伊藤野枝を偲ぶ」が9月2日、神戸市内で開かれ、伊藤野枝を偲ぶ学習・交流が行われた。

今年には多数の被災者をだし、朝鮮人・中国人の大量虐殺事件を引き起こした関東大震災から100

0年。全国各地で追悼行事が行われている。福岡では「伊藤野枝100年」ということでさまざまな取り組みが行われており、「兵庫の会」主催の講演会もその一環。また、全国各地では森達也監督の映画「福田村事件」の上映も広がっている。

伊藤野枝は、震災直後に大杉栄と6歳の甥宗一とともに、朝鮮人や中国人、そして社会主義者に対する異常ともいえるべき敵が心・嫌悪感をもっていた甘粕正彦憲兵大尉らによって扼殺された。講師の堀和恵さんから、大逆事件で刑死した

2023教育セミナーを開催

「教育が社会を変える」桜井智恵子さん講演

兵庫教育労働運動研究会・女性会議ひょうご

授の桜井智恵子さん。能力主義教育は評価で人を振り分ける資本主義のための教育であることを強く主張されている。

子どもたちの学力をつけるためにしてきた教員の努力が、実は能力主義に侵されたもので、逆に子どもや教員を追い込んでいるという指摘は大変考えさせられるものだった。今、クローズアップされている「居場所づくり」やヤングケアラーの問題についても、困っている人を支援すること

解決するのではなく、そういう人を生み出している社会を変えていくことにこそ目を向けるべきだと指摘もあつた。

さらに講演の終わりに、末期資本主義の学校の姿として、能力主義と「個別最適化」のもと、教員の非正規化とAI化が進み、学校自体が消滅する可能性もあるという話が出された。みんなが集まって一緒に何かをするという「共同性」を、学校が失わないようにという指摘だった。

「慰安婦」メモリアルデー企画 「性売買は性暴力」

金富子・東京外大名誉教授が講演

1991年、金富子さんが日本軍「慰安婦」だったと名乗り出た日を記念して8月14日が国連メモリアルデーとなり、それに因む企画として9月3日、神戸では「日本軍「慰安婦」問題を考える会」が「性売買は性暴力」と題した講演会を開いた。

講師は植民地朝鮮ジェンダー史研究者・東京外国語大学名誉教授の金富子さんで3時間に及ぶ熱弁だった。以下は講演要旨。

なぜ日本で「慰安婦」問題が解決しないのか。それは「慰安婦」を「性暴力被害者」ととらえる視点が弱く、「売春婦」と

約90分の講演の後、参加者から様々な質問が出されたが、それについて丁寧に答えていたことや、セミナー終了後、質問者に桜井さんのほから声をかけて話をしている姿を見て、桜井さんの人を大切にしている姿勢を感じた。そういう人柄もあってだろう、「桜井ファ

閉鎖され、大邱市では支援条例ができて支援事業活動も始められた。そして当事者たちが集ってネットワーク「ムンチ」(団結の意)を結成し、自分の体験を語る勇気ある行動を起している。

いま日本では少年への性加害がクローズアップされているが、カネや権力で「性」を売買するのは搾取であり、暴力であり、犯罪である。

そんな視点をしっかりと持ちたいと確認した集いだった。(アイ女性会議)



講演で3時間に及ぶ熱弁をふるった金富子さん＝9月3日、神戸市中央区

地域ユニオン あちこちあれこれ

昨年8月、赤穂温泉「呑海楼」の従業員Mさんから、「オーナーが中国人経営者になり、ハラメントや理不尽な退職強要について経営側の姿勢を問題にする態度をとったところ、職場集会で経営側から名誉棄損で訴える云々の発言があった」という相談を受けた。

第1回団体交渉では、Mさんの問題行動を改めさせるために職場集会を開催したという説明が代理「名誉棄損」云々という点については、「Mさんが、支配人の名誉を傷つける発言を多くの人に對して行ったから」との説明を受け、Mさんが発言内容の訂正を行ったので、弁護士からは「この程度のことでは解雇されるようなことはない」との認識が示され、この問題は収束したかに思われた。

ところがその後、Mさんに1月賞与が支給されなかったことから、3月

モノ言う労働者への嫌がらせを許さない

第2回交渉を行った。「旅館全体の業績が赤字基調であり、Mさんが所属する施設メンテナンス部門が修理を外注化するなど経費がかさんだこと」が理由であるとの説明を受けたが、「修理の外注化は設備の経年劣化が原因で、メンテナンス部門は利益を生み出す部署ではなく、そうした評価は適切ではない」と反論した。使用者側からは「会長の判断であり、詳しい内容は聞かされていない」と述べるにとどまったので、継続交渉とした。

第3回交渉では経営側は賞与不支給に関する説明をほとんど行わず、Mさんが他の従業員の二輪車に対して悪戯行為を行ったと疑われる動画を見せ、論点をはぐらかす態度に終始した。時間切れで次回交渉で「Mさんが雇用される際、施設の修理をする前提の契約だったのか」「外注コストが経営を圧迫したと言われる修理は、外注せずに済んだ内容だったのか」「Mさんにだけ賞与不支給とした理由は何か」を明確に回答するよう求めた。

モノ言う労働者への嫌がらせを許すわけにはいかない。

細川雅弘(姫路ユニオン委員長)



虐殺から100年の年に開かれた講演会には全国からも参加者があつた＝9月2日、神戸市灘区



講演で3時間に及ぶ熱弁をふるった金富子さん＝9月3日、神戸市中央区

おんなの目

8月にケールテレビで「戦争を語り継ぐ」という番組が放送される企画があり、戦争の体験談を募集している。と知った。30年ほど前に80歳で亡くなった祖父から聞いた話を是非ともしたいと思ひ応募した。

戦前、大陸で働いていた祖父は、日中15年戦争が始まる頃召集され、20歳代のほとんども戦地で過ごした。祖父の若い頃の記憶は年老いても鮮明で、いろいろな戦時中の話を聞かせてくれた。ケールテレビの取材を受けて、幾つか祖父から聞いた話をした。取材した話は、事前に教育長や教育委員が放送できるかを見て編集するという。そこで、カットされた話をここで披露したい。

祖父の話によると、召集されて最初に人を殺す訓練をするそうだ。中国人捕虜を木の杭に縛り付け銃剣で刺し殺す。新兵の中には刺して相手が出血すると震えが止まらなくなったり、腰が抜けてへたり込み動けなくなる人もいたそうだ。刺された中国人は手当されることもなく何度も刺され苦しみながら死んでいく。その様子が可哀そうで仕方なかった祖父は、自分の番が来た時、中国人が苦しむように死ねるように突きで殺すようにがんばったと話していた。片方は殺したくないのに、もう片方は殺されたくないのに、戦争をする国家はこんな恐ろしい行為を個人に強要する。殺すことを拒否すれば、自分が殺されたり、拷問のような処罰を受けたり、そして故郷の家族が非国民の家族として差別を受けるから従わざるを得なかった、と祖父は語った。

徹底した平和主義を

戦争とは破壊と殺戮のことであって、どんなルールを持ち込んでも正義の戦争、正しい戦争にならない。プチャの虐殺を忘れてはならないが、戦争する理由にならない。徹底した平和主義を私は求める。

ウクライナ東部に住む老婦人が語った言葉が心に残る。わずかな年金で自給自足に近い暮らしをする彼女は、今まで通りの生活ができるなら、自分の国がウクライナであろうが、ロシアであろうが、はたまた、どこか別の国であろうが、かまわないと言った。国家や国境線よりも個人のささやかな生活が大切なのだ。

それから78年間、日本は間接的に関わることはあっても、日本国憲法を盾にして直接的には戦争をしなかった。ところが、近年になって解釈改憲が行なわれ軍事が増強されている。特にロシアによるウクライナ侵略が始まると、軍力の強化が必要と言う人が増えた。

ウクライナ戦争が始まった時、私はウクライナに同情することができなかった。クリミア併合以降、ウクライナは兵力を

『部落解放』7月増刊号／第49回部落解放文学賞 解放出版社編集発行／10000円十税

部落解放同盟中央本部など4者で構成する部落解放文学賞実行委員会(鎌田慧代表)は、毎年、識字部門、記録・表現部門、小説部門、詩部門、児童文学部門、戯曲部門、評論部門の各部門について全国から作品を募集し、部落解放文学賞を選考している。

同実行委員会代表の鎌田慧氏は、「この文学賞がほかにない重要な特徴をもっているのは、創設以来、反差別と人権の拡大をめざし、ひとびとに生きる希望をあたえる作品が選ばれてきたことにある」と述べている。

その第49回部落解放文学賞は、2022年10月31日までに応募があった作品の中から入賞した作品(文学賞受賞作、佳作)が6月に「解放新聞」紙上で発表された。

そのなかで、部落解放同盟芦屋支部の支部長であり、ユニオンあしやの委員長としても

本棚

春に散る

本作は1979年、「テロルの決算」で大宅壮一ノンフィクション賞を受賞した沢木耕太郎氏の新聞小説が原作であり、沢木氏初の映画化作品である。

物語は広岡仁(佐藤と黒木翔吾(横浜)二人の居酒屋での出会いから始まる。からんできた酔っ払いをあっさりとその拳で倒した元ボクサーの広岡に黒木が向かっていき、あえなく倒されてしまふ。広岡は40年前、日本ボクシングに失望してアメリカへ渡ってホテ

ルの経営者として成功した男であった。だが、突然帰国した広岡は、所属していたボクシングジムの亡き会長のあとを継いでいる娘、真田令子(山口智子)からジムの寮で暮らした二人の仲間の居所を聞き、訪ねていくのだった。その一人、佐瀬健三(片岡鶴太郎)に広岡は「これからのこと、一緒に考えてみないか」と声をかける。もう一人の仲間、藤原二郎(哀川翔)が刑務所から出所するのを待って、一緒に暮らそうと誘うのだが、断られてしまう。そんな3人の前に広岡を

活躍する小畑広士さんの詩「地獄池」が見事、詩部門の部落解放文学賞を受賞したのだ。以下にその受賞作を許可を得て紹介する。

地獄池

禁じられた遊びをした

小畑広士

地獄池

越して行ってしまった

あの彼女はもういないだろう

地獄池

暈の船を浮かべ

大人たちに助けられた

地獄池

導水口を往処にしていた

大男「正吉」が居た

地獄池

子どもらが「正吉」「正吉」と囃したて

石を投げつけた夏休み

愛犬だった雑種の「チビ」

亡骸を山へ埋めに行った帰り道

涙で震んだ

地獄池

畦に建っていた

二階建て二間の木造アパート

戻ることの無い

地獄池

わたしの

旅のはじまりにあった

地獄池

この詩を読んだ仲間が感想を寄せてくれたのでこれも紹介したい。

「地獄池というタイトルから、部落問題が『死と背中合わせである』という問題提起だと感じた。作品の中で描かれている『悲しみ、苦しみ、貧しさ』などからは、作者が育ってきた、そして、生きてきた人々のありさまが映像として浮かび上がってくる。そして、結びで、この地獄池が作者の部落解放運動の始まりになったと綴られていることに心を打たれた」(戸田恵人)。

小畑さん自身も「自分の原風景であり、カミングアウトと言えるもの」と述べている。本書ではそれらの入賞作のほか、選評や受賞の言葉などが掲載されている。

購入ご希望の方は新社会党兵庫県本部まで問い合わせを。

(野上 司)

う一度ゼロから教えてほしいと広岡に頼むのだった。そんな広岡は、「俺は歳だ。先が短い」と断るのだが、黒木からの「俺も先なんか無い。今しかないんだ」の言葉に心を動かされるのだった。それから広岡流のトレーニングを受けることになり、広岡と黒木は世界チャンピオンの座を奪うため戦いを続けていく。そして、1年後の春、二人の人生をかけた世界タイトルマッチのゴングを聞くことになるのだ。

本作の魅力は何といっても迫力のある試合のシーンである。これは、本作で山下裕二役でも出演している松浦慎一郎氏のボクシング指導・監修に

シネマランド

人生の最後のひとつの理想を描く



探すために配達員となっていた黒木がやってくる。黒木はかつてボクサー

だったが、不公平な判定に負けて怒り、一度やめてしまったボクシングをも

う一度ゼロから教えてほしいと広岡に頼むのだった。そんな広岡は、「俺は歳だ。先が短い」と断るのだが、黒木からの「俺も先なんか無い。今しかないんだ」の言葉に心を動かされるのだった。それから広岡流のトレーニングを受けることになり、広岡と黒木は世界チャンピオンの座を奪うため戦いを続けていく。そして、1年後の春、二人の人生をかけた世界タイトルマッチのゴングを聞くことになるのだ。

本作の魅力は何といっても迫力のある試合のシーンである。これは、本作で山下裕二役でも出演している松浦慎一郎氏のボクシング指導・監修に

監督 片岡鶴太郎

監督 片岡鶴太郎

23年/日本/133分